

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202429		
法人名	(有)ドルフィン		
事業所名	グループホーム ドルフィン		
所在地	静岡県静岡市葵区桜町1丁目9番34号		
自己評価作成日	平成21年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成21年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の家族との関係作りに力を入れ、家族・本人とも安心して暮らせる様支援している。家族の要望があれば、看取りも行ない最期に家族・本人にとっての満足に近づける様に支援している。又、個別対応に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静岡市を流れる安倍川の東岸の住宅地に通所介護支援事業所と共に開設されたグループホームです。代表者・管理者からは三年の経過の中でより良い支援を可能とするための検討・工夫を繰り返し、理想ではなく「現実の生活に根ざした支援を目指す」という取り組みを確認できました。また職員の多くが、同じ地域の住民という心強さも 運営や地域との結びつきに良い影響として現われています。桜の木が見える庭を挟んで、入居者とデイ利用者・職員ともに自然体の声を掛け合う場面も垣間見られ、家庭的な雰囲気は満ちていました。このサービス評価を改善の機会と前向きに捉え、応援団である各関係者を巻き込み活かす取り組みになることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者の理念に基づき、年1回職員研修で共有している。	事業所の理念を月1回のほぼ全員参加するミーティング開始時に唱和することにより意識付けを諮り、その後の会議の内容にもつなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており行事の時には参加する様にしている。(町内会ファイル・町内加入領収書)	町内在住の職員が多いことが後押しとなり、利用者と近隣の方々との馴染みの関係が出来て、職員の家族も含め、日常の交流がなされています。12月には恒例のキムチ作りの会場にもなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回ではあるが、認知症予防勉強会をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回を目標として、実施している。	運営推進会議には近隣の方々に参加いただき、取組状況の報告、認知症の基本知識の理解・防災時のこと・ターミナルケアについて等々の内容で開催されています。	家族・代理人にグループホームの運営推進会議の意義を説明することで、家族の参加を促すことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から状況説明などを行ない連絡を密にしている。	市担当者の運営推進会議への参加は無いが、福祉担当者の来所は多くあり、日常の利用者の様子や現場の実情は伝わっています。	市民福祉の充実のために市担当者に現場の状況を受け止め理解を得ることが大切と捉え、運営推進会議への参加も含めて連携を深めることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念の中に身体拘束の件を入れ、勉強会、研修時に周知している。	身体拘束を理念に掲げ全職員で取り組んでいます。安全優先を願う家族からの希望には説明し、本人への実践を通して理解を諮っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念の中に入れており、研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現況として、生活保護者に対して、権利擁護導入時、配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族と逢い、十分なコミュニケーションをとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱をもうけている。ケアプラン作成時家族に会い意見を聞いている。	最低年2回実施している本人・家族との面談時には現在の様子を伝え 思いや意見・要望を聞き、記録として書き留めケアプランや運営に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時 話を聞いている。	代表者・管理者共に入所者の生活に多く触れているため、現場スタッフの声も、聞き逃すことなく管理者に直接届き 早く反映され 不安・迷い等は研修の実施につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生面において等努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ別 実技研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に出来るだけ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居した方は、管理者が2日間程寄りそって関係作りを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後 家族との時間をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時 通所介護・ショートなどの利用の説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に考え、行動している。 (あたりまえの事をあたりまえに)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとり、隠す事なくすべて話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・面会において制限する事なく受け入れられている。	明るい日中の面会を基本としていますが、夜間の面会もあり外からの馴染みの方を職員と共に迎えています。家族同伴の外出・外泊も行なわれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活におき、その都度支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族とも適時連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに反映している。	入居後も、普段の対話を通して、思いや暮らし方の希望の情報収集に努め、センター方式のシートを使用し「本人の姿」の把握がされています。個別にゆっくりと日用品の買い物に行くことも満足に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し送り時適時職員に通知して、アセスメントをカルテに綴っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時々職員で話し合いを行ないアセスメントをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフと担当者会議を開き、家族の方にも思いを聞く機会を定期的に行なっている。	本人の身体状態や日々の暮らしぶりを「個別ノート」に丹念に記録しチーム内で共有し、関係者を含む担当者会議を開き、管理者が中心となり介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子をなるべく詳細にノートに記入し、職員がその方の事を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の受診の対応、付きそい等に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が得意な部分を見つけ、職員が生活の中で楽しみを見つける様、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期的往診を行なっている。	協力医が定期的に月に一回訪問診療を行ないホーム内の看護師が伴い互いの情報を共有しているため、本人・家族の安心な支援になっています。又馴染みの医師への受診も行なっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が看護師に その都度口頭及び個々のノートに記入し伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、看護師に様子を聞いたり、家族と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に家族との話し合いを行なっている。その結果を職員に伝えている。	最低年2回の本人・家族との面談時に「最終的ターミナルについて」意向を確認し、話し合っています。協力医・看護師の態勢が整い、看取り介護の経験もあり、家族からも信頼されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、職員がいつでも見ることが出来る所に置いてある。	町内防災訓練に利用者と共に参加し、又独自の防災・災害マニュアルを作成し意識づけを落しています。消防署員による消火器の訓練も行ない、8月の地震後 備品・非常用食料を確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重したプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。	「心あたたまるケア」を職員全員がめざし、一人ひとりに添って配慮ある対応や言葉掛けをしています。代表者が「利用者の家族」でもある為その目線を大切にし、指導研修がなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に近づける様に努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しやすいが、出来るだけ入居者に寄りそった生活が出来る様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケア、頭髪を整えたり、化粧したい方には、声かけや手助けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の仕たくは難しいので、片付け等は手伝ってもらったり、メニュー等は希望を入れる様努力している。	皆の顔が見える大きなテーブルを囲み支援が必要な方には自然に寄りそい食事をしています。契約農家から毎日届く野菜を使った食事は美味しいと好評でした。夕食は職員も共にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェックをし、水分は定期的に配茶をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に食後に必ず口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導をしたり、時間チェックすることで、排泄パターンを知り、誘導 声掛けをしている。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導を行ない自らのトイレでの排泄を支援しています。現在おむつ使用は一人のみです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操をする事で、腸の運動を促進させたり、ヤクルト・ヨーグルトを定期的に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望時間を取り入れる様にしている。	併設の通所介護事業所内にある「総ひのき風呂」を希望する利用者が多く、温泉気分の四季を楽しめる入浴をしています。勿論、グループホーム内の個浴槽も使用可能です。	希望があれば毎日の入浴支援も可能となっていますが、入浴の回数を多くして欲しいという家族の声もありました。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も その人のペースにあわせ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理。又、副作用等スタッフに伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ・パズル・将棋等本人の希望のレクレーションに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の人が多く、遠出は難しい事もあるが、出来るだけ戸外に一日1回は出る様に心掛けている。	自然に恵まれ散歩に適している立地を活かし、独力での歩行の方、車椅子の方共に 花を楽しんだり四季の風景を感じ、地域の方々と言葉を交わし ふれ合う外出支援が、普通の生活の中で行なわれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金に対してはトラブルになりやすい為、常時は預かっているが、買い物時は、利用者本人がやり取りする様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、スタッフが電話をして、本人が会話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、まめに掃除を行ない、散歩時に季節の花をいただいてきたり、買ったりして飾っている。	玄関を入ると入居3年の小型犬が出迎え、一日2回入居者の下に放され、入居者の笑顔を引き出し癒やしとなっています。居間兼食堂の窓からは自然豊かな景色が眺められ、狭さをあまり感じさせない工夫がされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭のベンチや 近くにある川の土手などで過ごせる時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に話し合いをし、家族に協力してもらい、本人の思い出の品を持ってきてもらっている。	各居室は家族等の支援も仰ぎ 使い慣れた家具・テレビ・日用品・壁にはポスター等、その人らしさの工夫がありました。小さなホットカーペットに座り仲良しの語らいも見られ、居心地よい「自分の部屋」となっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	乱雑にならない様 整理整頓をして、本人が出来る事は安全に行なえる様に見守っている。		